

令和5年度
神奈川区保健活動推進員会
活動状況に関するアンケート調査
結果報告書

令和6年5月
横浜市神奈川区

目 次

1 調査の目的.....	1
2 調査の設計.....	1
3 表記等について.....	1
4 集計結果.....	2
(1) 回答者の属性.....	2
(2) 活動の両立について.....	4
(3) 保健活動推進員を引き受けた動機.....	8
(4) 委嘱される前から、保健活動推進員を知っていたか.....	9
(5) 活動のやりがい.....	10
(6) 活動の負担感.....	13
(7) 活動を続けるうえで大事にしていること.....	16
(8) 活動しやすくなるためのご意見やアイデア.....	18
(9) 区会長会の希望する開催頻度.....	20
(10) 区会長会の希望する開催方法.....	20
(11) 地区の保健活動推進員への情報提供方法.....	21
(12) 区会長会の持ち方についてのご意見・ご要望.....	22
5 使用した調査票.....	23

1 調査の目的

令和6年度に第3期健康横浜21が策定され、地域の健康づくりの担い手として保健活動推進員への期待が高まる中で、保健活動推進員の認知度向上や新たな担い手の確保が課題である。

こうした課題解決に向けた取り組みを進めるために、保健活動推進員の動機、やりがい、負担感など活動実態を把握するアンケート調査を実施した。

2 調査の設計

(1) 調査対象者

神奈川区保健活動推進員 195名(令和5年11月末時点)

(2) 調査期間

令和6年1月30日～令和6年2月29日

(3) 調査方法

ア 配布 令和6年1月30日の区会長会で周知し、各委員へ調査票を郵送。

イ 回収 各委員が調査票に回答し、同封の返信用封筒にて郵送(無記名式)。

(4) 回収状況

ア 配布数 195枚

イ 回収数 162枚(回収率83.1%)

3 表記等について

(1) 図表中の「N(回答者数)」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率(%)の母数を表している。

(2) 図表の単位は、特にことわりのない限り「%」(回答率)を表している。

(3) 回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがある。

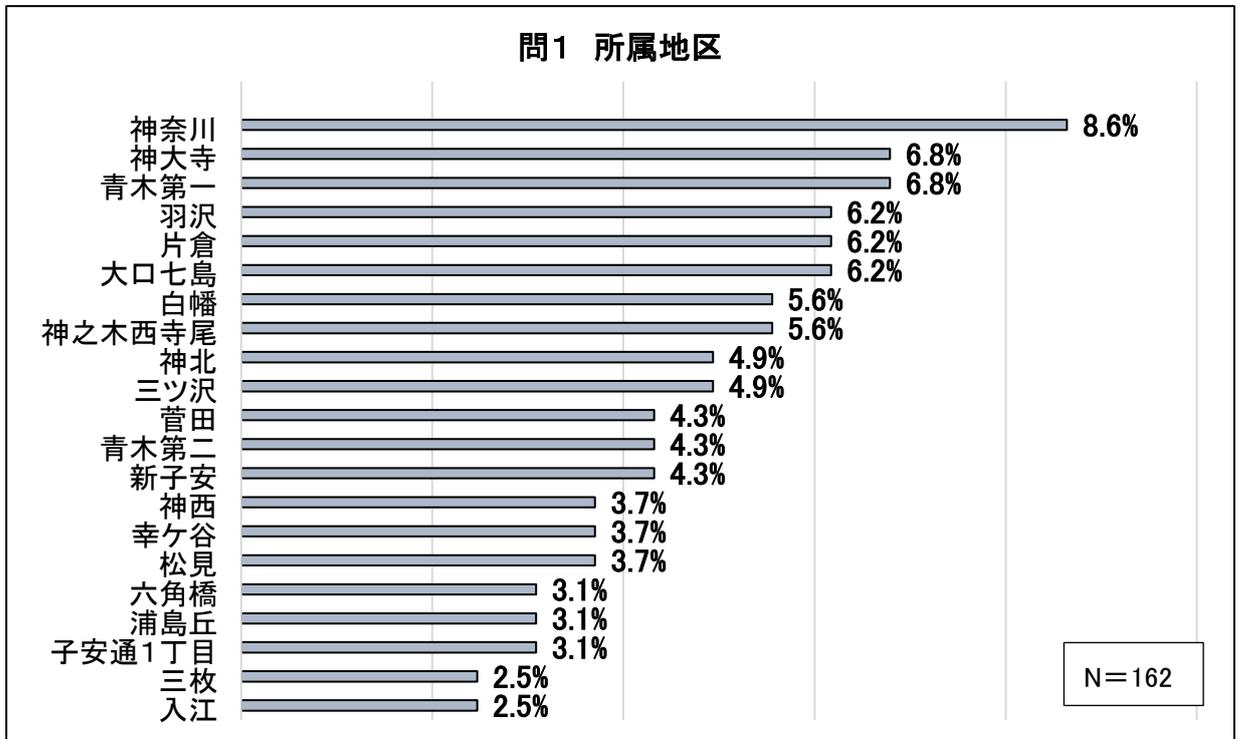
(4) 選択肢の一部を省略・編集している場合がある。

(5) クロス集計については、分析の柱となる項目(年齢や性別等)の「未記入」・「その他」は掲載を省略している。ただし、「全体」は集計対象の全数を表示しているため分析の柱となる選択肢の回答者数を合計しても必ずしも全体の数値とは一致しない。

4 集計結果

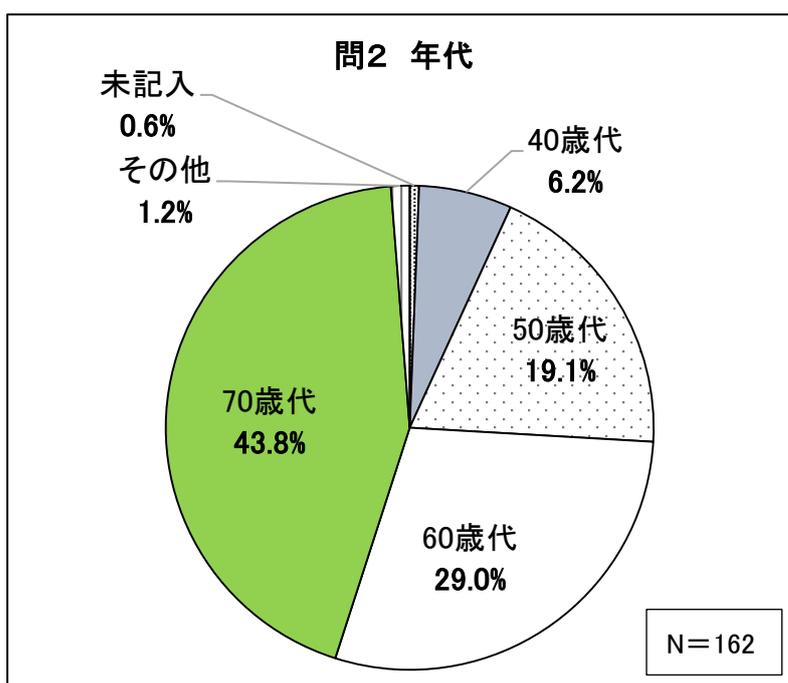
(1) 回答者の属性

ア 所属地区



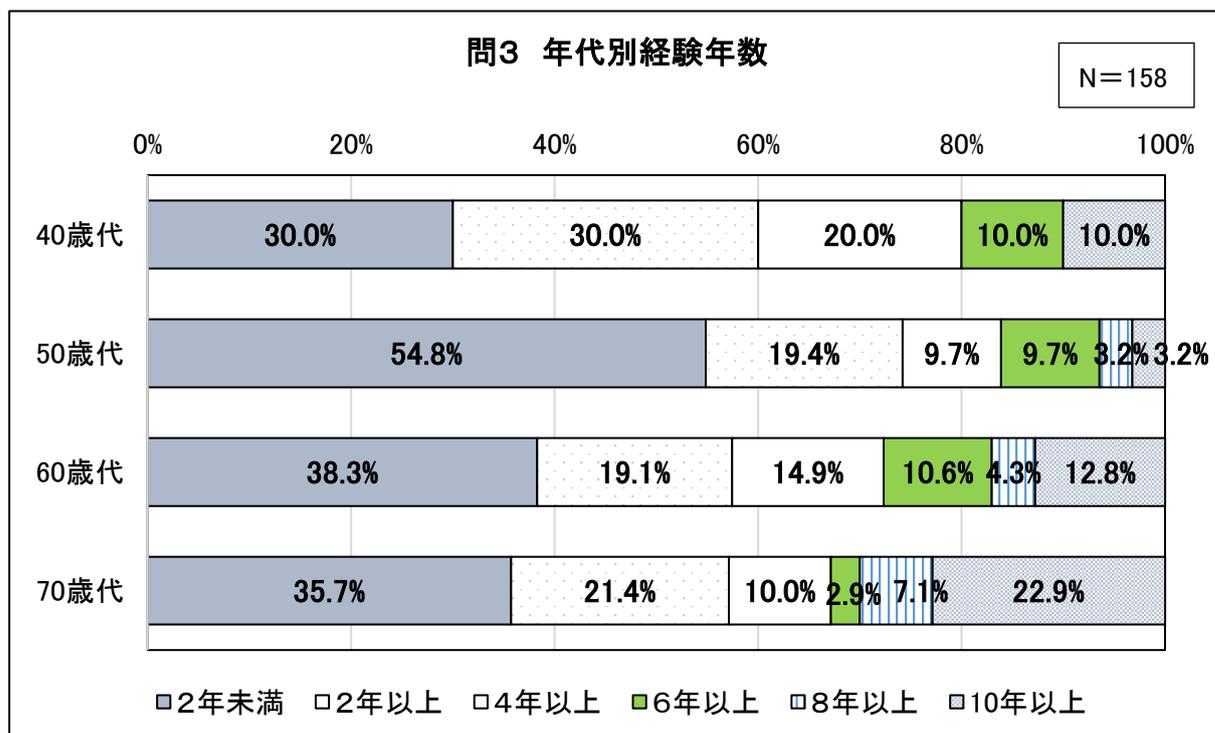
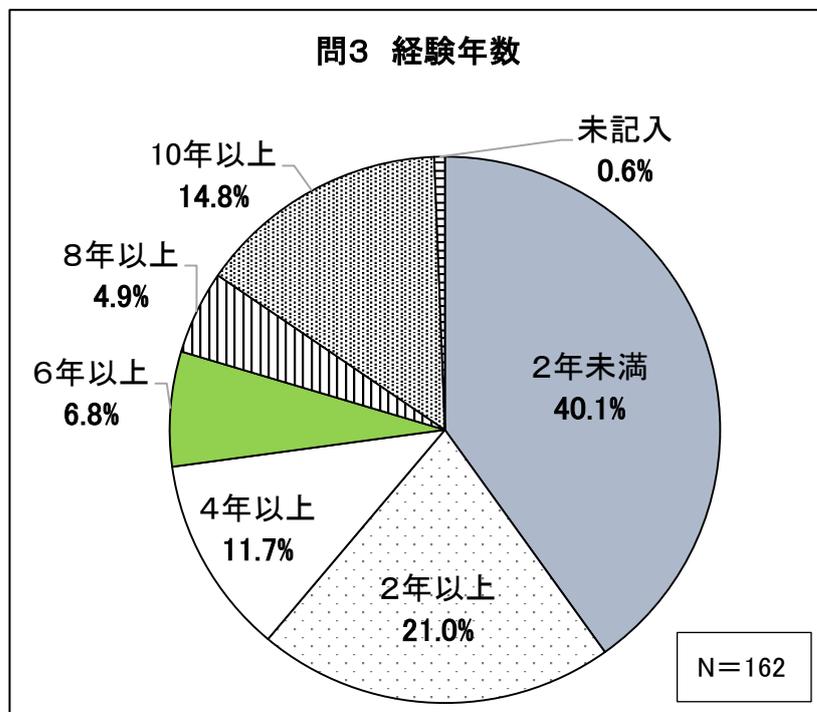
イ 年代

70歳代が43.8%で最も多く、次に60歳代29.0%となっている。



ウ 保健活動推進員の経験年数

経験年数は、「2年未満」が40.1%と最も多くなっている。年代別に見ると、どの年代も「2年未満」が最も多く、次いで40歳代、50歳代、60歳代では「2年以上」、70歳代では「10年以上」が多くなっている。

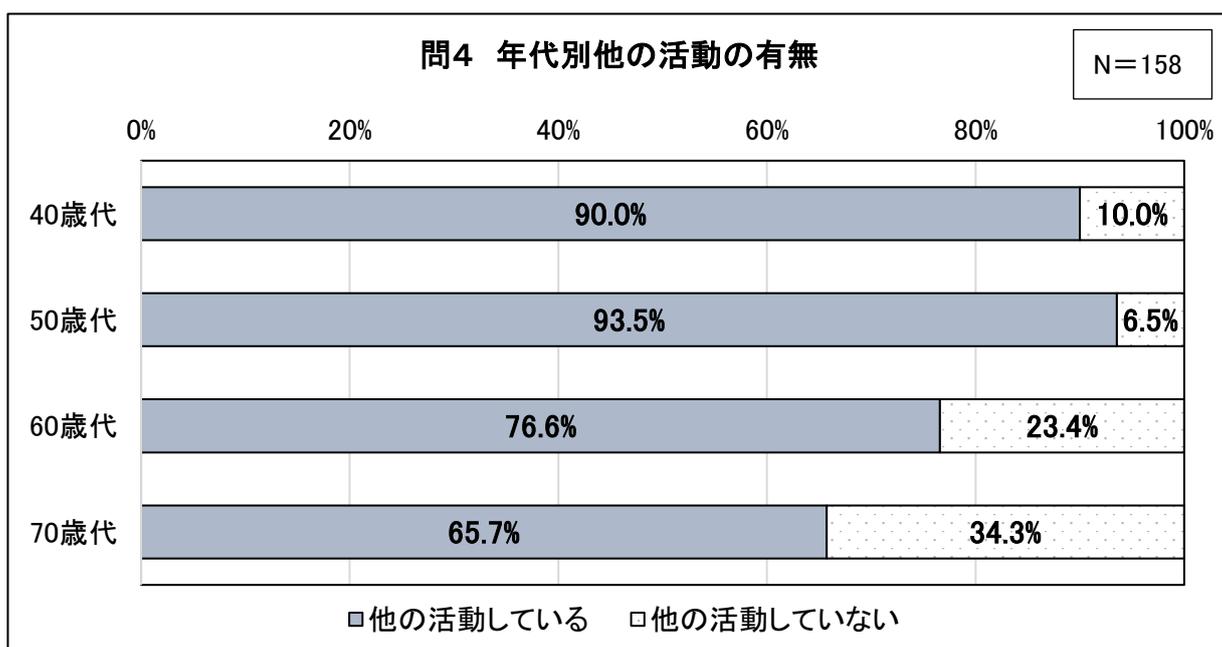
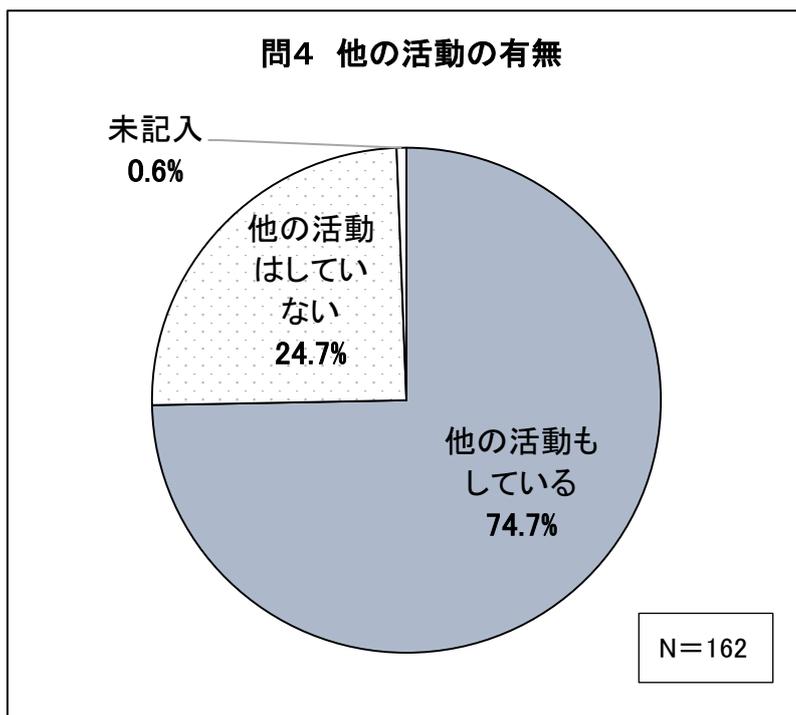


(2) 活動の両立について

ア 仕事(地域団体※の役員含む)や育児、介護をしながら活動をしているか

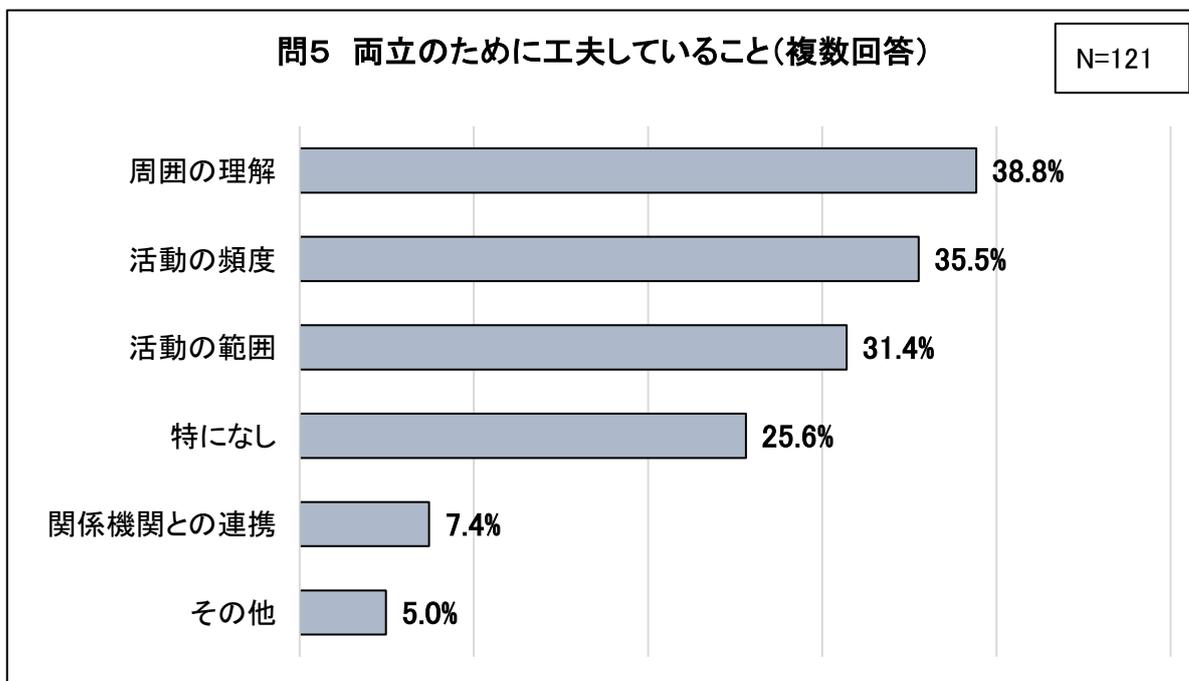
※自治会町内会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、老人クラブ、子ども会等、地域に根ざした活動を行う団体のこと。

「他の活動もしている」人は全体の7割以上となっており、年代別に見ると 50 歳代が 93.5%で最も多く、年代が上がるにつれて割合が低くなっていた。



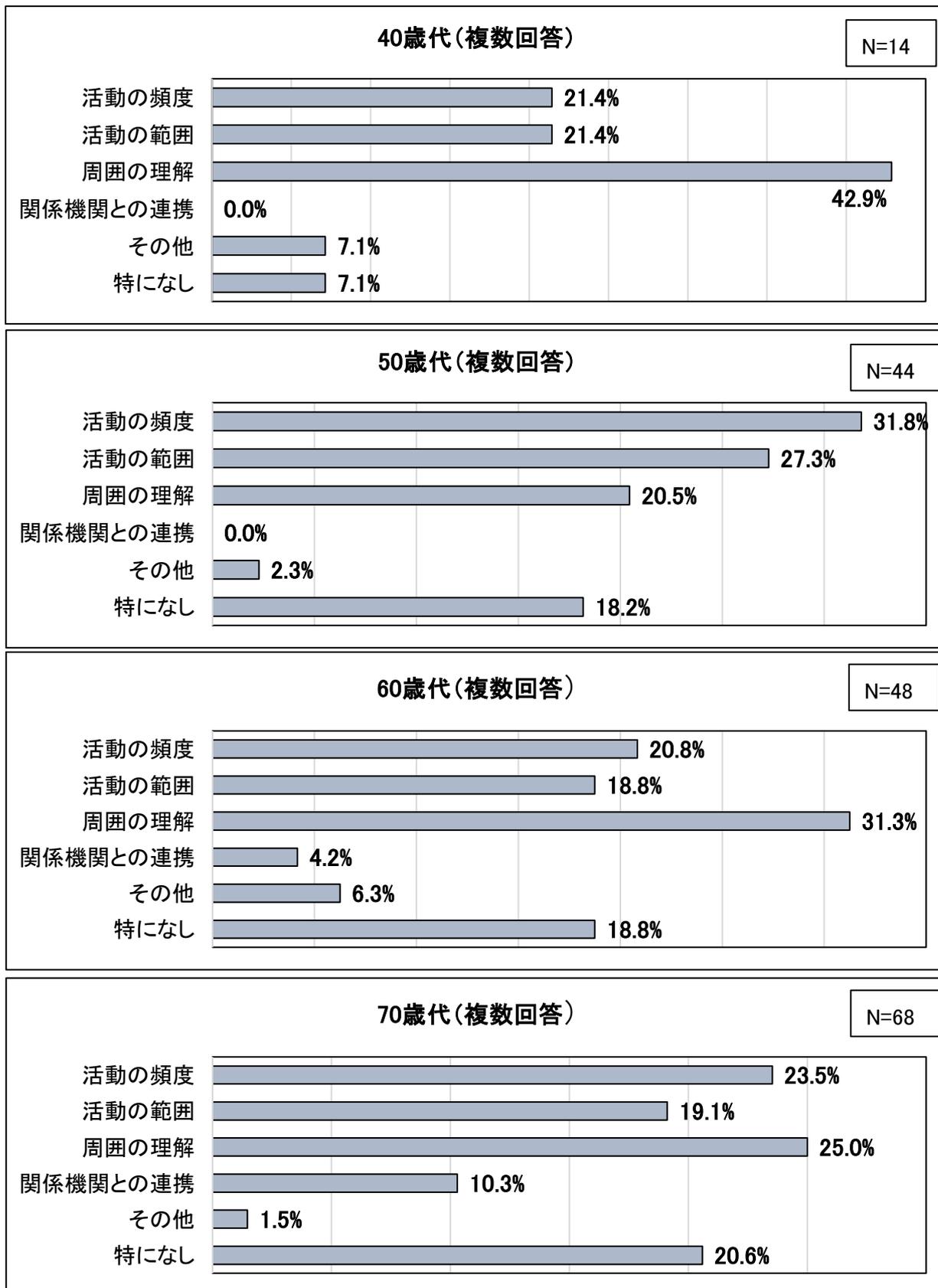
イ 活動と生活(仕事や育児、介護)の両立のために工夫していること (2つまで選択可能)
(問4で他の活動も「している」と回答した人のみの設問。)

「周囲の理解」が 38.8%と最も多く、次いで「活動の頻度」、「活動の範囲」となっている。



年代別比較

どの年代も「周囲の理解」、「活動の頻度」、「活動の範囲」が多くなっている。



ウ 工夫していることについて、具体的な内容（自由記載）

主な意見

<家族や周囲の理解と協力>

- ・家族の協力と理解が不可欠。
- ・仕事が優先だが、保活の活動のため仕事を休むこともあり、周囲に理解してもらっている。
- ・介護をしているので、周囲の理解をいただき、出来る範囲でやれることをやっている。
- ・各自治会町内会長に保活を理解してもらうため、保活の行事に参加していただいている。
- ・連合町内会にて保活が部会の一員として活動しているため、負担は軽減され、協力体制が取れるようになってきている。
- ・地域ケアプラザの保健師さんにご協力いただき、活動をしている。

<無理をしない>

- ・負担にならない程度の活動に参加している。
- ・出来る時に出来る範囲で無理をしない。
- ・自分に出来る事と出来ない事を選択し、楽しく活動出来る範囲で参加している。
- ・仕事を優先しているので、自分の空いている時間で参加。
- ・活動を近場に限定して無理しない。

<調整・相談>

- ・活動日が決まっているので、仕事や他の予定が入らないよう事前に調整している。
- ・出来る活動の頻度を決めて、都合をつけて隙間時間を利用して活動している。
- ・活動は月に1度、決まった日時に行っているため、家族の協力が得やすい。
- ・月の前半に活動をまとめて、後半は自分の時間、家族の時間にしよう工夫。
- ・仕事や子どもの予定と可能な限り重ならないよう調整している。
- ・分担出来ることは分担して活動している。
- ・早いうちにスケジュールを調整し相談する。
- ・相談事が生じた場合、早い時点で会長や担当に伝えて対応している。
- ・町内会の活動とバッティングしないように工夫している。

<学び>

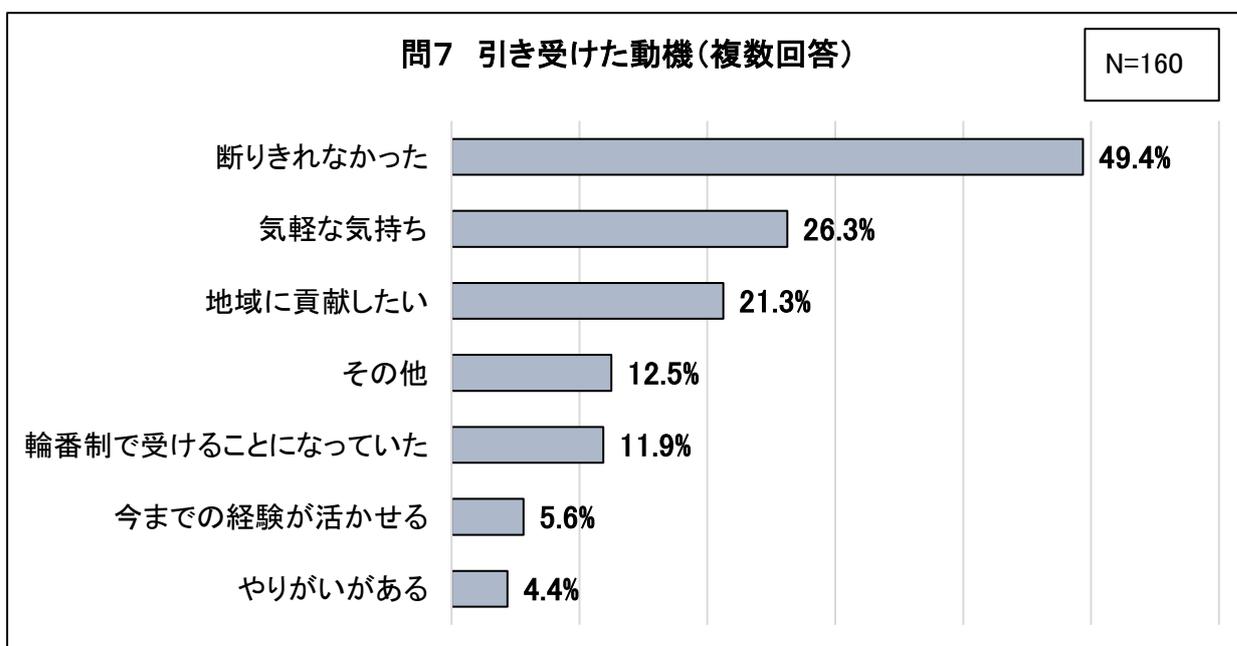
- ・保活の知識を町内会の集まり等、他でも活用している。
- ・保活の新人研修を行っている。
- ・関係機関の催しに積極的に参加し、その情報を共有するように心がけている。

<自身の健康づくり>

- ・まず自身が健康になること。
- ・仕事や介護等も両立しており身体が辛い時もあるが、生活リズムを整え、ポジティブになるように心がけている。

(3) 保健活動推進員を引き受けた動機 (2つまで選択可能)

「断り切れなかった」が 49.4%で最も多く、次いで「気軽な気持ち」26.3%、「地域に貢献したい」21.3%となっている。

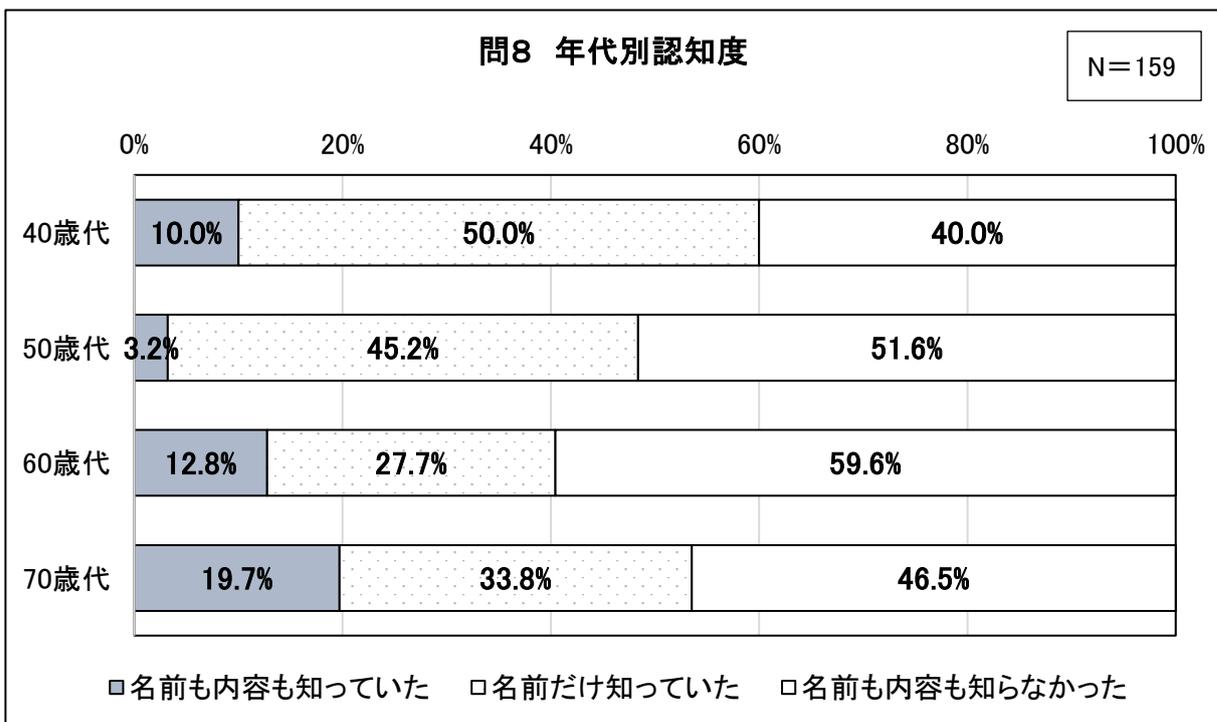
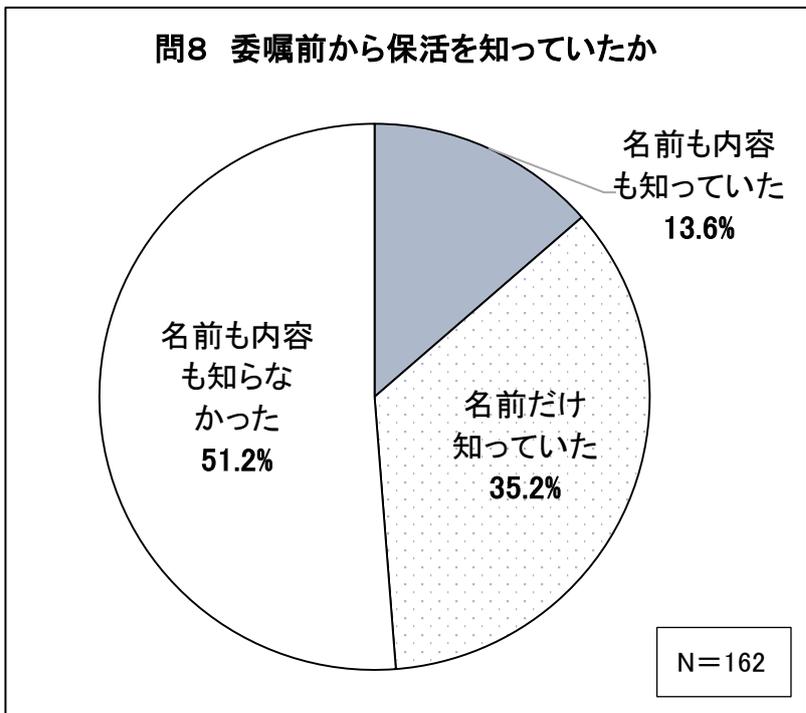


<その他>

- ・地域に少しでも交流する機会を作りたい。
- ・町内会で意見を言う以上、何らかの役割を担うことで責任を取ろうと思った。
- ・保活がどのような活動をしているのか知りたかった。
- ・ウォーキングや研修等、自分の健康のためになると思った。
- ・町内で行っている活動の担い手は、保活になる必要があった。
- ・元々保健推進の活動に参加していたため。
- ・ずっと仕事をしており地域とのつながりがない事に気づき、地域とつながりを持ちたかった。
- ・認知症予防として。

(4) 委嘱される前から、保健活動推進員を知っていたか

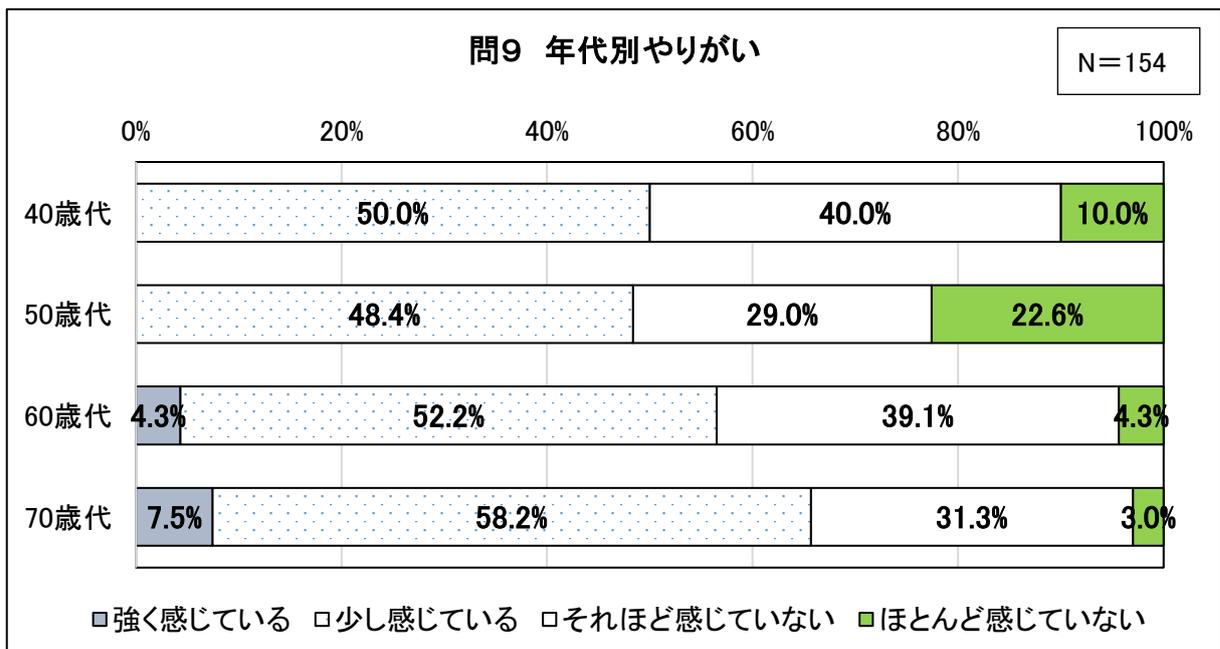
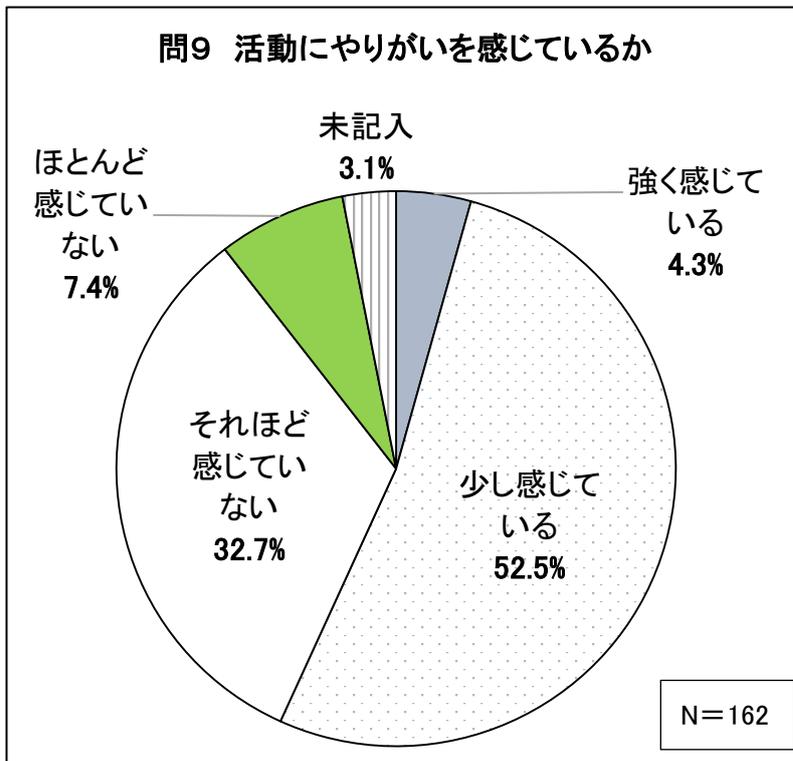
「名前も内容も知っていた」または「名前だけ知っていた」人は全体の 48.8%となっている。年代別に見ると、40 歳代では「名前だけ知っていた」人が最も多く、60 歳代では「名前も内容も知らなかった」が最も多くなっている。



(5) 活動のやりがい

ア 保健活動推進員の活動にやりがいを感じているか

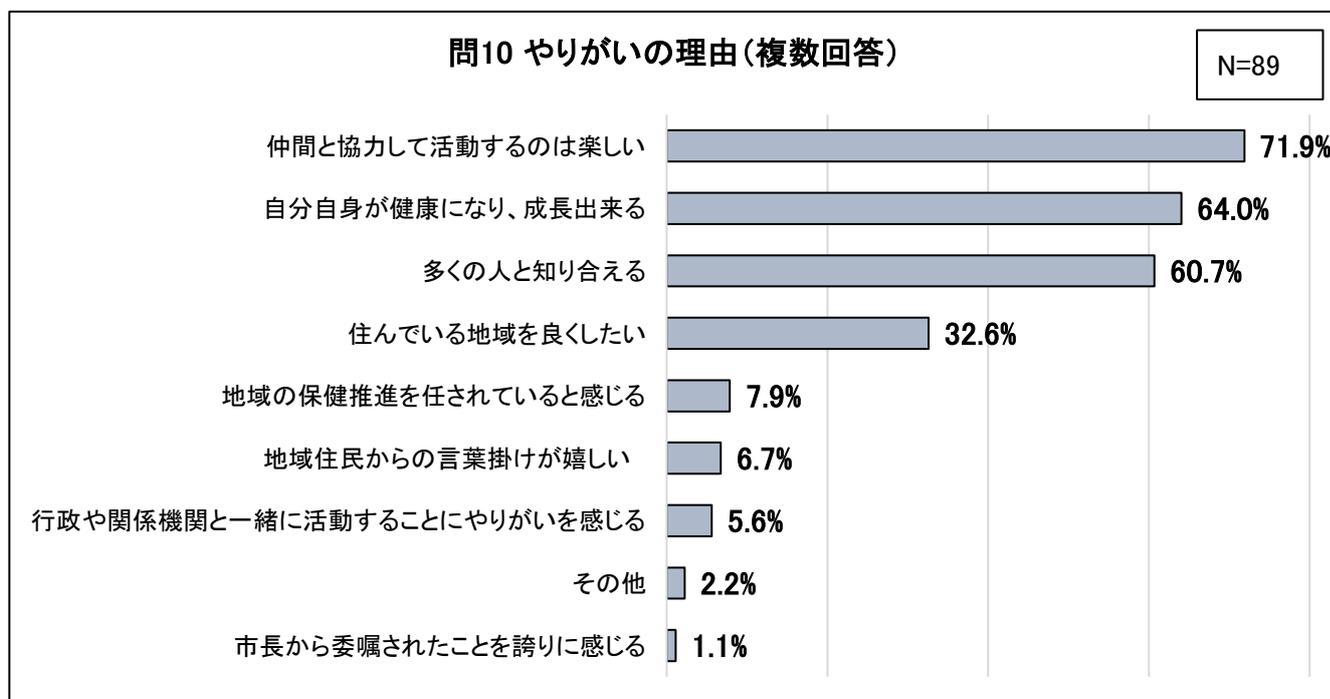
活動にやりがいを「強く感じている」または「少し感じている」人は全体の5割以上となっている。年代別に見ると、年代が上がるにつれてやりがいを感じている人の割合が増加している。



イ やりがいを感じている理由（3つまで選択可能）

（問9で「強く感じている」、「少し感じている」と回答した人のみの設問）。

「仲間と協力して活動するのは楽しい」が 71.9%で最も多く、次いで「自分自身が健康になり、成長出来る」が 64.0%、「多くの人と知り合える」が 60.7%となっている。

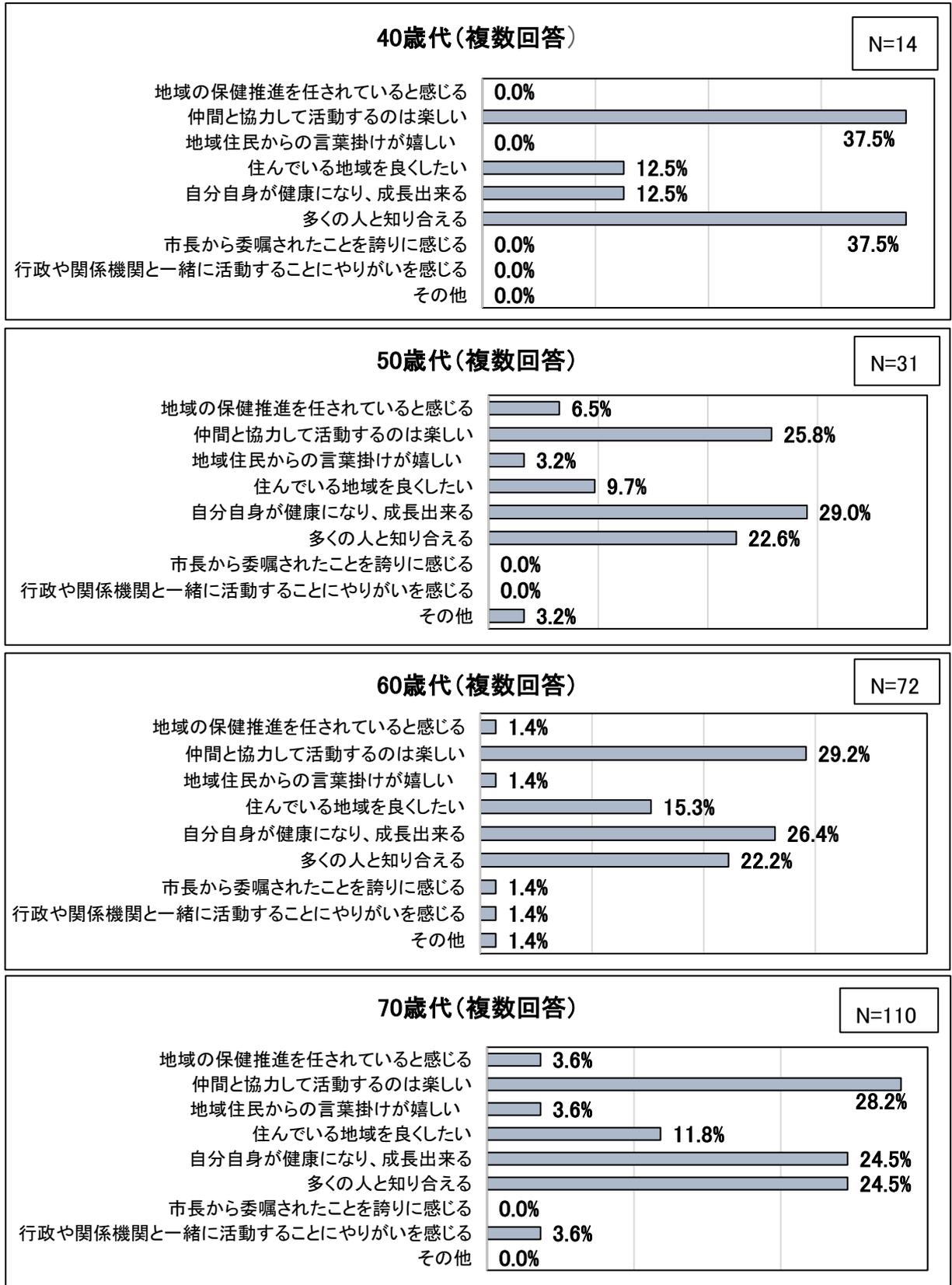


<その他>

- ・保活の研修会へ参加後、実践する機会があり、それを自治会に広められた。
- ・保活同士顔見知りになることで、街で会って声を掛け合える関係がたくさん作れた。

年代別比較

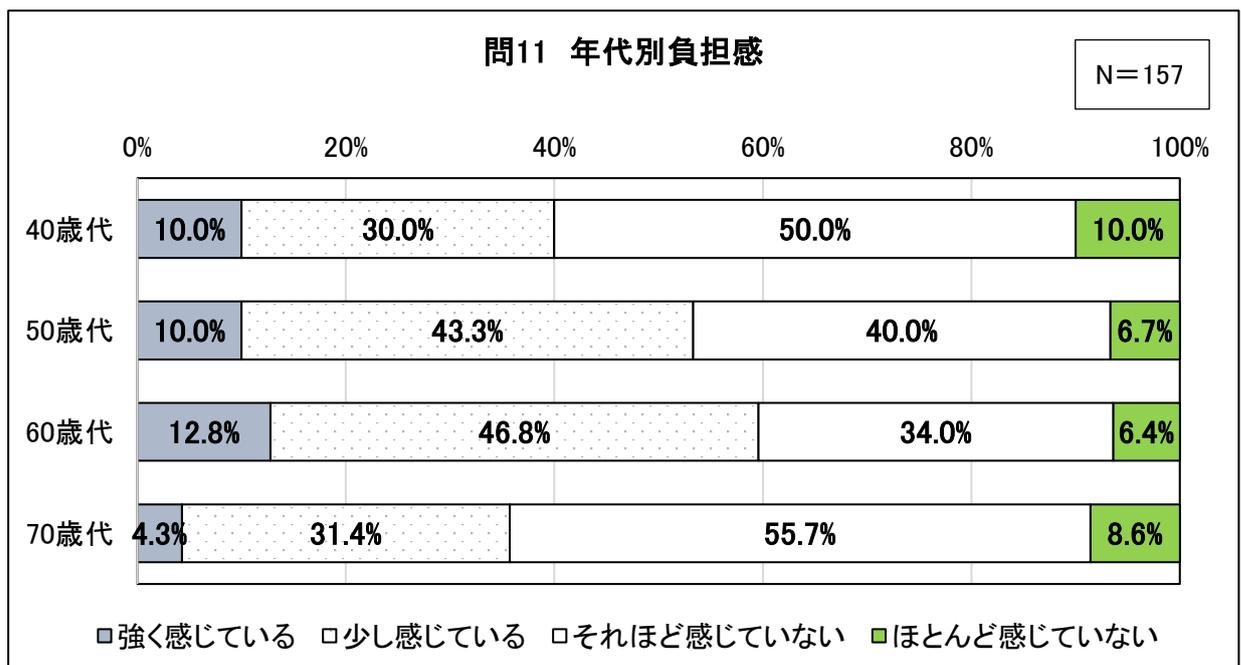
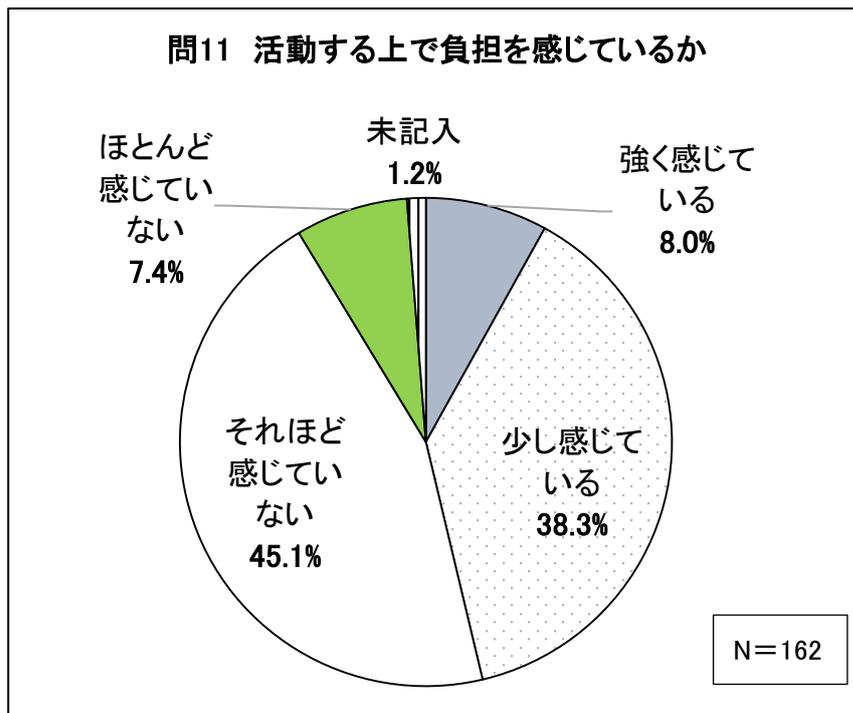
どの年代も、「仲間と協力して活動するのは楽しい」、「自分自身が健康になり、成長出来る」、「多くの人と知り合える」の割合が高くなっている。



(6) 活動の負担感

ア 保健活動推進員の活動に負担を感じているか

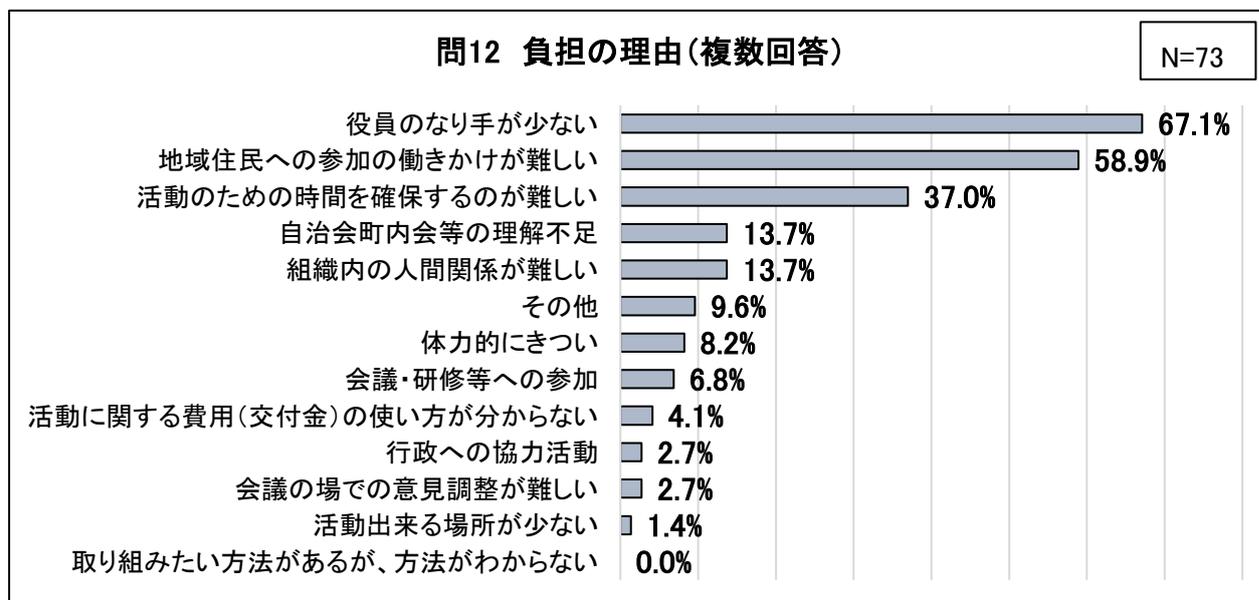
活動に負担を「強く感じている」または「少し感じている」人の割合は 46.3%となっている。年代別に見ると、「強く感じている」または「少し感じている」人の割合は年代が上がるにつれて高くなるが、70歳代では「それほど感じていない」または「ほとんど感じていない」人の割合が最も多くなっている。



イ 負担を感じている理由（3つまで選択可能）

（問11で「強く感じている」、「少し感じている」と回答した人のみの設問。）

「役員のなり手が少ない」が67.1%で最も多く、次いで「地域住民への参加の働きかけが難しい」が58.9%、「活動のための時間を確保するのが難しい」が37.0%となっていた。

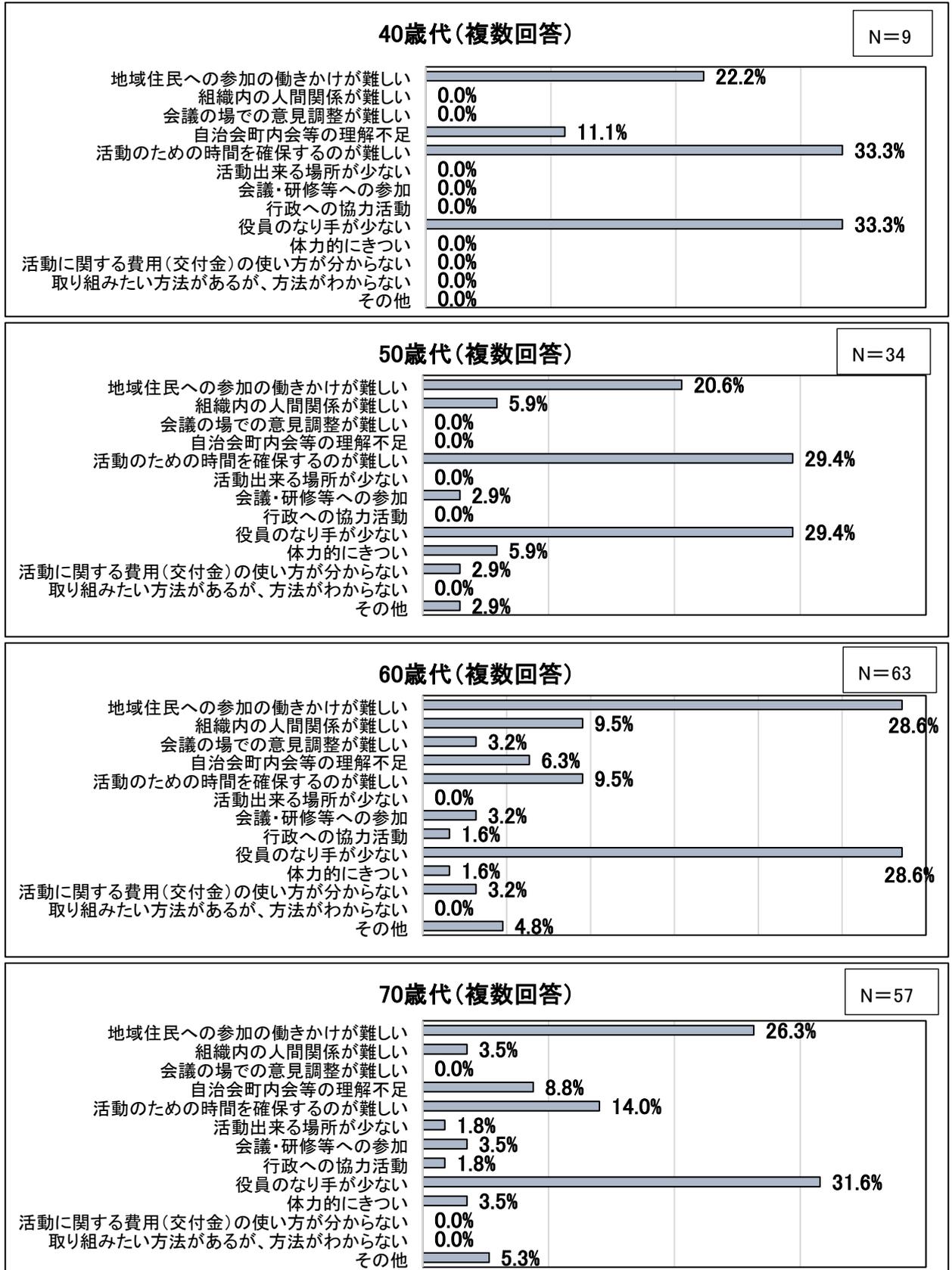


<その他>

- ・委員が少なく、活動の仕方がわからない。
- ・町会の役員もしなくてはいけない。
- ・人前で話をするのが苦手。
- ・活動を知られていない。
- ・新たな事に取り組もうとしても、拒否感がある。

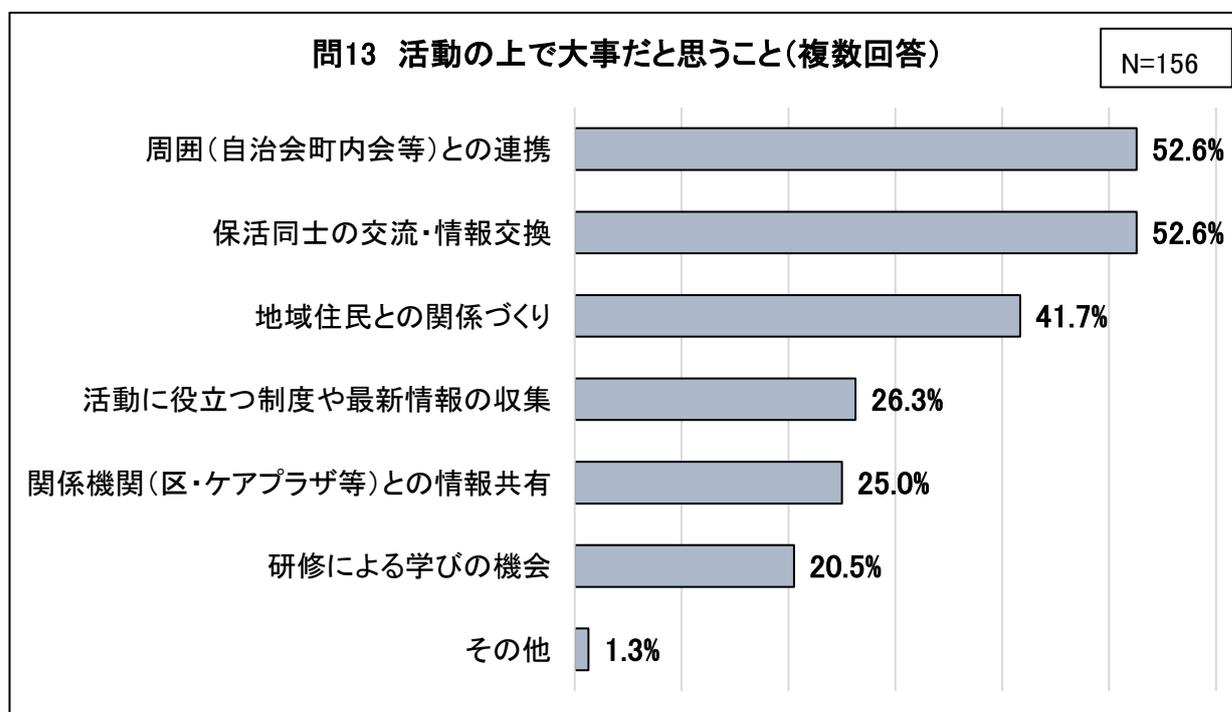
年代別比較

どの年代も、「役員のなり手が少ない」、「地域住民への参加の働きかけが難しい」、「活動のための時間を確保するのが難しい」が多くなっている。



(7) 活動を続けるうえで大事にしていること (3つまで選択可能)

「周囲(自治会町内会等)との連携」が 52.6%、「保活同士の交流・情報交換」が 52.6%と最も多く、次いで「地域住民との関係づくり」が 41.7%となっていた。

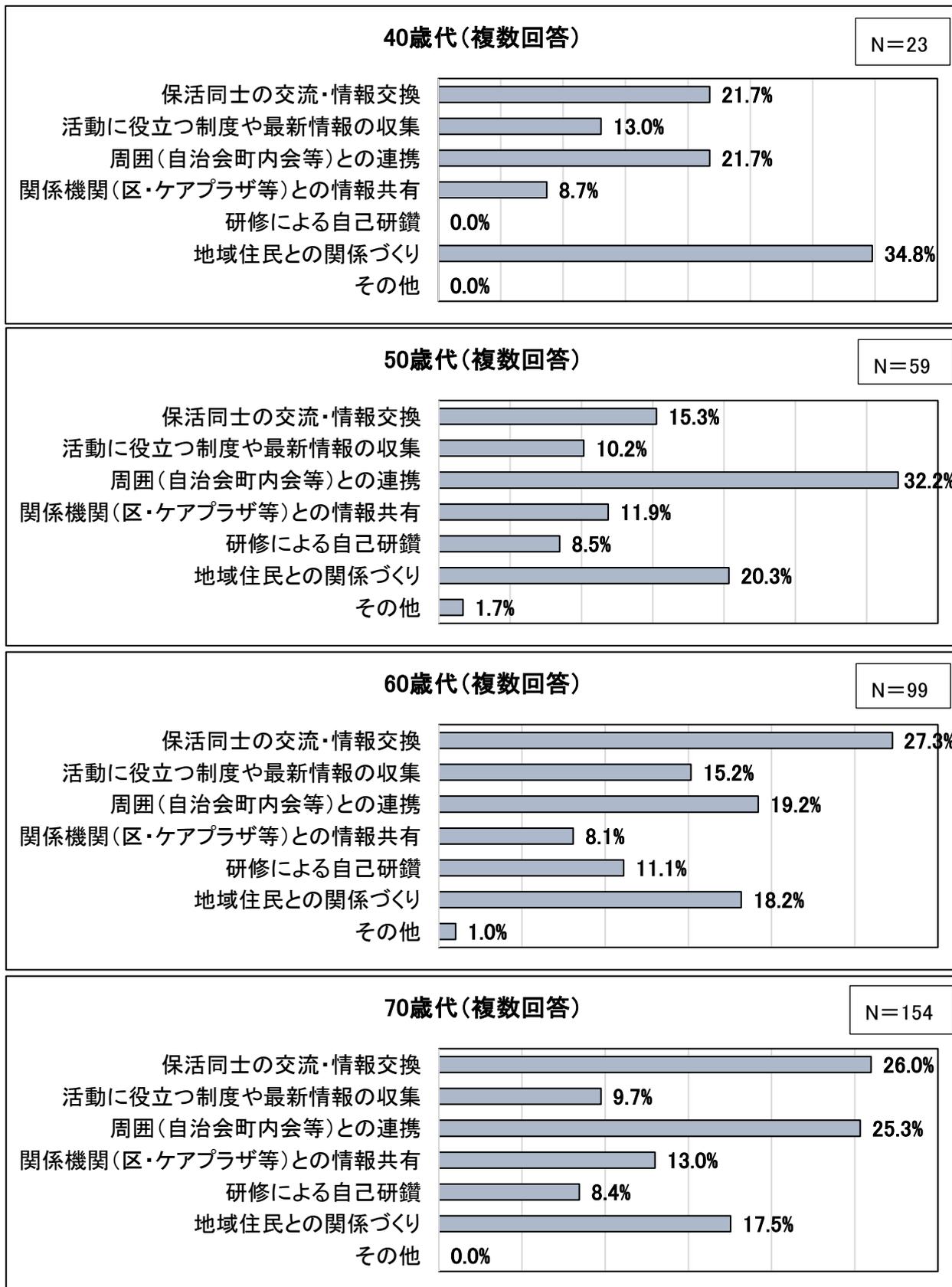


<その他>

- ・活動について町内全体に啓蒙すること。
- ・負担は少なめで活動すること。

年代別比較

40歳代では「地域住民との関係づくり」が最も多く、50歳代では「周囲(自治会町内会等)との連携」が最も多くなっている。60歳代、70歳代では「保活同士の交流・情報交換」が最も多くなっている。



(8) 活動しやすくなるためのご意見やアイデア（自由記載）

主な意見

<活動の対象>

- ・活動のターゲットを絞った方が良い。
- ・高齢者向けになりがち。活動の目的を明確にし、幅広い年代に向けた保健活動が必要。

<活動内容>

- ・ウォーキング等活動に参加すると良いことがたくさんあるので、「参加したい！」という気持ちにさせる“何か”を見つけなければいけない。
- ・多くの人に参加してもらえる工夫(楽しいこと、健康に良いと思ってもらえる)が必要。
- ・もっと気楽に活動に参加できるといい。
- ・地域のお祭り等に積極的に参加して、健康チェックの場を増やすと良い。
- ・委員の内々で活動が完結しているように感じる。地域住民を巻き込んだ活動や、外に對しての発信など、地域に貢献できるような活動であってほしい。
- ・ウォーキングスタッフで実際に歩いて作成したマップを参考に歩いている。皆で歩くのも楽しいが、一人で歩く時にも良い。

<連携・交流>

- ・自治会町内会からの必要性和、民生委員や福祉部門との連携。
- ・自治会及び地域住民とのコミュニケーション作りが大事。
- ・自治会長が保活の活動に参加して知っていただく。
- ・自治会町内会を越えて保活と交流し、地域でどんな活動をしているか教え合ってはどうか。
- ・保活のみでの活動には限界がある。区役所、ケアプラザとの連携が必要。

<情報伝達方法>

- ・掲示板の利用、回覧板は3か月前には情報を発信する。
- ・回覧板で、手軽に取り組める運動や健康メニュー等が載ったニュースを回したい。
- ・郵送による委員全員への情報提供をより密にして欲しい。
- ・チラシや情報を LINE 等で送れるようにすると、会合に参加していない人にも配信できる。
- ・紙が多過ぎるので、必要な事の配信や、会議をリモートにする等。

<認知度向上>

- ・もっと周知されるような工夫が必要。年配の方たち向けに加え、区役所での乳幼児健診の時等に、保護者向けに健康情報を知らせながら若い方達に保活を PR するのも良い。
- ・住民の方々に保活をアピールし、広く参加する仲間を増やす機会を広げること。
- ・イベント等でもっと身近に活動を行い、保活を知らない人達に知っていただく必要がある。
- ・保活の認知度の低さは、健康への認識の低さがあると考えられる。健康への認識アップを図ることで、結果として保活の活動のしやすさに繋がるのでは。

<若い世代へ>

- ・活動や会議が平日昼間の時間帯だと、現役世代は参加が難しい。幅広い年代の方が参加できる方向を探りたい。
- ・自分自身の健康を考えると意義ある活動なので、スポーツ企画等、もっと若い方が活動に参加する企画があればと思う。
- ・次世代の方達の参加を促すこと。

<仲間との関係づくり>

- ・一緒に活動しているメンバーと良い関係を築く事が、楽しく活動出来ていると感じる大きな要因と思う。
- ・ベテランの方が多いと安心して一緒に楽しく活動出来る。
- ・地区のメンバーが仲良いと行事も楽しくなり、参加してくれた一般の方にも活気が伝わる。
- ・1人で動くのではなく役割分担すると、自分達の発想で相談しながらやれるのでとても楽になった。

<学び>

- ・研修等の機会に参加して情報の収集を心掛けておくこと。
- ・年一回行われる研修会は勉強になるので、保活になって良かったと思う。

<交付金>

- ・会計担当者の負担があるため、交付金は希望する地域だけに交付すれば良い。
- ・交付金はきちんと使われているのかチェックした方がいい。

<保活の仕組み>

- ・各自治会町内会の推薦制度ではなく、ボランティア活動の一環として登録制にしては。
- ・現在は町内会から保活を一人選出しているが、二人以上にして経験のある人と新人が重なるようにしていくと受けやすいのでは。
- ・保活の名称が固く、活動内容や目的が分かりにくい。
- ・オレンジ帽子と緑のベストは若い人は着たくないのでは。
- ・健康に役立つ事を学べるので、任期を最大6年位にして、様々な人がなっても良い。

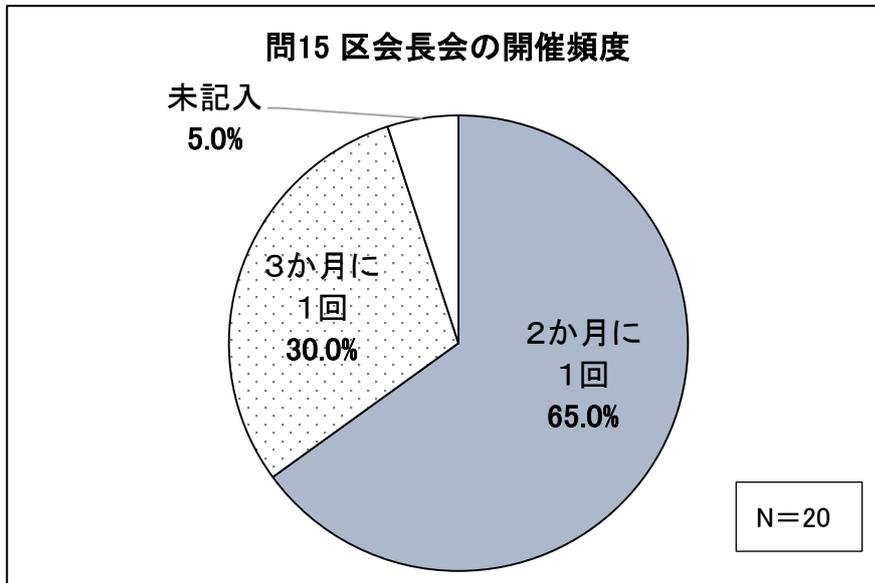
<その他>

- ・どこまでが保健活動推進委員の仕事で、どこからが他の活動なのか分かりにくい。
- ・まずは自分の健康の保持増進を図り、積極的に地域活動に参加し、現状を把握すること。
- ・断り切れずに保活になったが、担ってみると自らの為でもある事を実感。先入観は不要、実感を周りに伝えるようにしている。

※(9)～(12)は地区会長のみ回答

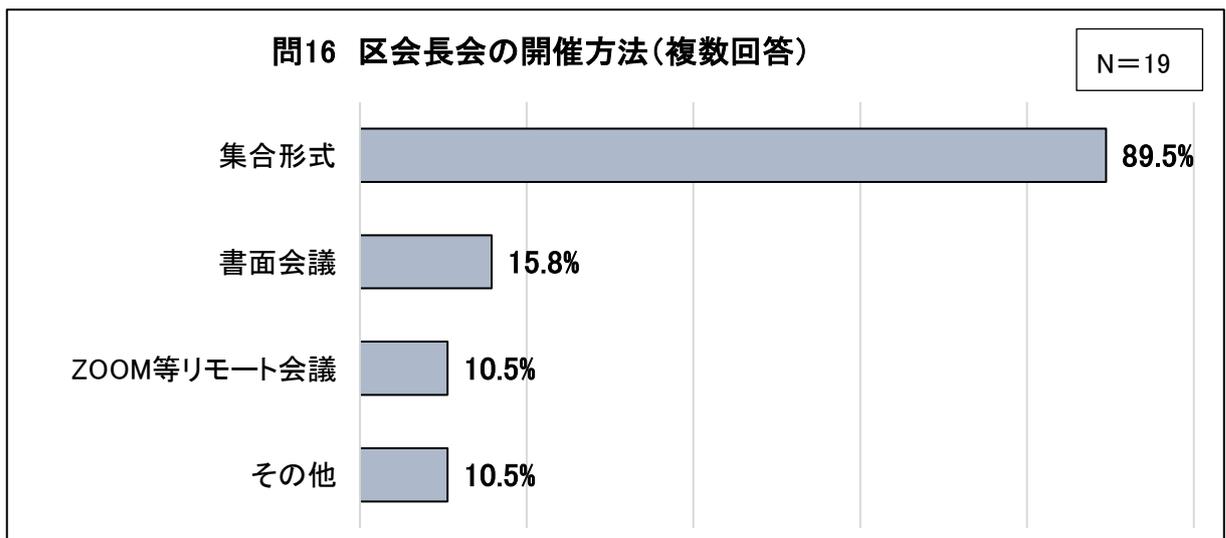
(9) 区会長会の希望する開催頻度

区会長会の希望開催頻度は「2か月に1回」が最も多くなっている。次いで「3か月に1回」が多く、回答はこのどちらかに二極化している。



(10) 区会長会の希望する開催方法 (3つまで選択可能)

区会長会の希望開催方法は「集合形式」が最も多く、次いで「書面会議」となっている。方法を組み合わせた開催を希望する人もいる。

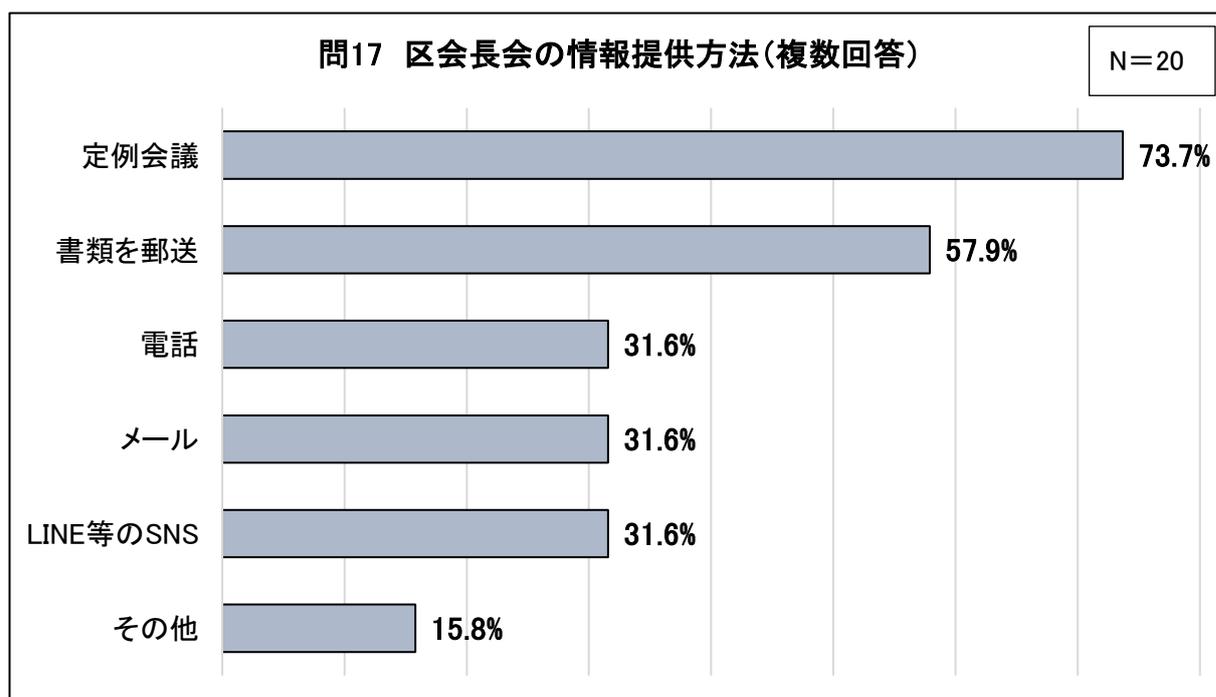


<その他>

- ・集合形式と書面会議を組み合わせると嬉しい。リモートは難しい。
- ・集合形式+書面形式交互に開催。

(11) 地区の保健活動推進員への情報提供方法（複数選択可能）

地区の保健活動推進員への情報提供方法について、「定例会議」が最も多く、次いで「書類を郵送」が多くなっている。「電話」、「メール」、「LINE等のSNS」を活用した情報提供も行われているほか、「その他」で「訪問して直接伝えている」との回答もあり、情報提供方法は多岐にわたっている。



<その他>

- ・訪問。
- ・定例会欠席者に書類を郵送や訪問。
- ・会議内容をまとめ配布チラシとともに届けている。

(12) 区会長会の持ち方についてのご意見・ご要望（自由記載）

主な意見

＜会議について＞

- ・若い人でも会議の参加が負担とならないように、土曜日開催も考慮したらどうか。
- ・委嘱委員の会議は平日昼間の開催が多く、就労している方に役員になってもらう事が困難。
- ・開催時間は従来通りで良い。午後の会議にしているのを助かる。
- ・会議は 14:00～15:30 の時間が良い。
- ・会議資料が多い。パワーポイント等を使っての説明でも良いと思う。
- ・地区の行事も重なってしまうと、会議に負担を感じる。

＜グループワーク・研修について＞

- ・現在のディスカッション形式は良い。他の地区の活動等を聞けるので勉強になる。
- ・グループワークが各会長の苦労話を聞くだけになりがち。
- ・地区活動の自慢や上手くいった取組例等の交換の場になると気分も明るくなるのでは。
- ・グループメンバーが固定化しているので、色々な地区から活動の状況を聞きたい。
- ・保健師によるミニ研修は有用。
- ・ミニ研修の内容を地区の定例会で伝えるのが難しい。テーマごとに簡単なレジュメや DVD 等にすると情報を共有しやすい。

＜その他＞

- ・各々の地区が現況や今後を話し合い、保活の在り方を見直す時期にあると思われる。
- ・保活 1 年目で手探りでやっているところであり、学ばせていただいている。



令和5年度 神奈川区保健活動推進委員会
活動状況に関するアンケート調査
ご協力のお願い

この度、保健活動推進員が活動しやすい環境づくりに向けて、活動の実態や課題について把握するためのアンケート調査を実施させていただきます。
郵送にてご回答ください。

<回答期限>

令和6年2月29日(木)まで

<回答方法>

この調査票に回答を記入



返信用封筒に入れ、
ポストに投函

お問い合わせ・ご提出先

神奈川区役所福祉保健課 保健活動推進員会事務局
電話:045-411-7138 FAX:045-316-7877
メール:kg-kenkou@city.yokohama.jp
〒221-0824 横浜市神奈川区広台太田町 3-8

※皆様にお答えいただいた内容はすべて統計的に処理し、本調査以外の目的には使用しません。
また、無記名調査ですので、個人のお名前や住所などが公表されることは一切ありません。
調査結果につきましては、神奈川区ホームページや広報等で公表させていただく場合があります。

問1～問14は、すべての方にお聞きします。

問1 あなたの所属地区名をお答えください。不明の方は「22 不明(カッコ内)」にお住まいの町名のみお書きください。(〇は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|--------|----------|
| 1 新子安 | 2 子安通1丁目 | 3 入江 | 4 神之木西寺尾 |
| 5 松見 | 6 大口七島 | 7 白幡 | 8 神奈川 |
| 9 幸ヶ谷 | 10 神西 | 11 浦島丘 | 12 青木第一 |
| 13 青木第二 | 14 三ツ沢 | 15 神北 | 16 六角橋 |
| 17 神大寺 | 18 片倉 | 19 菅田 | 20 羽沢 |
| 21 三枚 | 22 不明() | | |

問2 年代は次のどちらですか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------|--------|----------|
| 1 30歳代 | 2 40歳代 | 3 50歳代 |
| 4 60歳代 | 5 70歳代 | 6 その他() |

問3 保健活動推進員を何年務めていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1 2年未満 | 2 2年以上 | 3 4年以上 |
| 4 6年以上 | 5 8年以上 | 6 10年以上 |

問4 現在、お仕事(地域団体*の役員含む)や育児、介護をしながら活動をしていますか。(〇は1つ)

*自治会町内会、民生・児童委員協議会、地区社会福祉協議会、老人クラブ、子ども会等、地域に根ざした活動を行う団体のこと。

- | | |
|--------|---------|
| 1 している | 2 していない |
|--------|---------|

問5 問4で「1 している」と回答された方にお聞きします。

活動と生活(仕事や育児、介護)の両立のために工夫していることはありますか。(〇は2つまで)

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1 活動の頻度 | 2 活動の範囲 | 3 周囲の理解 |
| 4 関係機関との連携 | 5 その他() | 6 特になし |

問6 問5で「1 活動の頻度、2 活動の範囲、3 周囲の理解、4 関係機関との連携、5 その他」と回答された方に伺います。工夫していることについて具体的にお書きください。

問7 保健活動推進員を引き受けた動機についてお答えください。(〇は2つまで)

- | | | |
|-----------|------------|-------------------|
| 1 やりがいがある | 2 地域に貢献したい | 3 今までの経験が活かせる |
| 4 気軽な気持ち | 5 断りきれなかった | 6 輪番制で受けることになっていた |
| 7 その他() | | |

問8 保健活動推進員に委嘱される前から、保健活動推進員を知っていましたか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------------|-------------|----------------|
| 1 名前も内容も知っていた | 2 名前だけ知っていた | 3 名前も内容も知らなかった |
|---------------|-------------|----------------|

